

新「戦争と平和」

法学部政治学科2003年度生 田島 裕一

1. はじめに

杉田敦氏の境界線やカール・シュミットの友／敵概念を前提とし、現代の社会を恒常的な戦争状態にあると仮定することによってどのような世界が見えてくるかをタジズム的に考察してみたい。

2. 現実主義と理想主義

- 「理想主義的理想主義」：観念論やユートピア論
- 「現実主義的現実主義」：現状追認
- 「現実主義的理想主義」：現実を前提として、それに対して理想を実現しようという考え。
- 「理想主義的現実主義」：平和という理念から出発して、現実への実現を考える。

☆今回の考察は、現実を前提として理想を考え、その理想をどのように現実に当てはめて実現していくかというプロセスをとる。

3. 戦争状態

- 資源の有限性…土地・貨幣・食料など
- 先進国の資源の囲い込み…救命艇の倫理
- 国内での貧富の差の拡大
- 国際的なテロと国内の暴動…9.11の同時多発テロ・イギリスの同時多発テロ・フランスの暴動など

○テロや暴動は顕在化した不満であるが、潜在的な不満はかなりあると考えられる。

4. カントの「永遠平和のための確定条項」

○第一確定条項…各国家における市民的体制は、共和的でなければならない。

○第二確定条項…国際法は、自由な諸国家の連合制度に基礎を置くべきである。

○第三確定条項…世界市民法は、普遍的な友好をもたらす諸条件に制限されなければならない。

5. 「人類」という概念

○カール・シュミットの人類概念批判

- ①正義論批判
- ②国際連盟批判
- ③政治的ではない概念

○私の人類概念

- ①普遍的な概念
- ②国家に保障されるものではなく、能動的に得た概念。
- ③境界線のない概念
- ④自由・平等という理念を体現した概念
- ⑤隣人愛（マタイ 5.43~45）
- ⑥「脱政治学」
- ⑦「第4の近代」

6. 平和状態

○思考の開放

○重層性の確保

○戦争状態の認識

○平和状態の能動的な希求

7. おわりに

8. 参考文献

- 杉田敦『境界線の政治学』岩波書店 2005年
- 杉田敦『権力の系譜学』岩波書店 1998年
- メアリー・カルドー『新戦争論』山本武彦／渡部正樹訳 岩波書店 2003年
- 小林正弥編『戦争批判の公共哲学』勁草書房 2003年
- カール・シュミット『政治的なものの概念』田中浩／原田武雄訳 未来社 1970年
- 加藤尚武『戦争倫理学』ちくま新書 2003年
- 多木浩二『戦争論』岩波新書 1999年
- イマヌエル・カント『永遠平和のために』宇都宮芳明訳 岩波文庫 1985年